

小学生が考える楽しさに関する研究 —大阪の少年野球チームに着目して—

小川 憲人 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 北村 哲

キーワード: 野球, 楽しい, 小学生

1. 緒言

競技を長く続けていくためには、「楽しさ」は、必要不可欠な要素であると考えられる。ジャクソン・チクセントミハイ(2005)は、スポーツを楽しんだ時、「面白い」、「ウキウキ」、「ワクワク」という言葉が思い浮かぶと述べている。多くのスポーツ種目における「楽しさ」の研究がなされている中で、少年野球における「楽しさ」については研究がされていない。

そこで本研究は、現在少年野球チームに所属している小学生を対象に、楽しさの見出し方は年齢別及び競技歴別でどのように異なるかを明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

1) 対象

現在大阪の少年野球チームに所属する小学4～6年生までの対象とした。9歳8名、10歳30名、11歳24名、12歳18名の計80名

2) 調査対象

少年サッカーの楽しさの構造を明らかにした内田ら(2004)のアンケート用紙を参考に、野球の技ができることの楽しさ「達成」、難しい技への挑戦に伴う楽しさである「挑戦・能力向上」、上手くできた時に人から認められることに伴う楽しさである「承認」、チームとして一体感が感じられることに伴う楽しさ「仲間」、思い切り身体を動かすことが出来る楽しさ「活動欲求」の5つの観点による全31問のアンケートを作成し、4段階で回答を求めた。

3) 分析方法

得られた結果について各質問別また、5つの観点別に合計点を算出し、5つの観点において競技歴別、年齢別に比較検討を行った。分析は一元配置分散分析を行い、有意差が認められた項目については、多重比較を行った。

3. 結果と考察

5つの観点得点について、年齢別および競技歴別で比較した結果、各観点の合計点において有意な差は見られなかった(図1, 図2)。大阪の少年野球チームに所属している小学校4～6年生において、「楽しさ」は変化しないと考えられる。

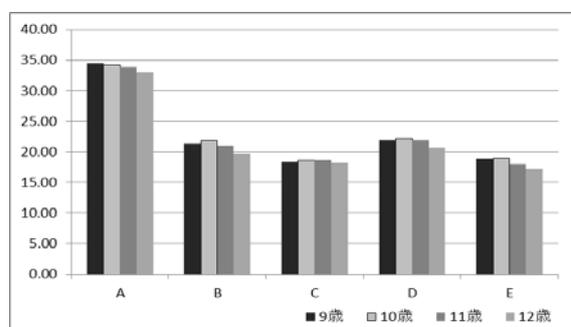


図1 年齢別合計点の違い

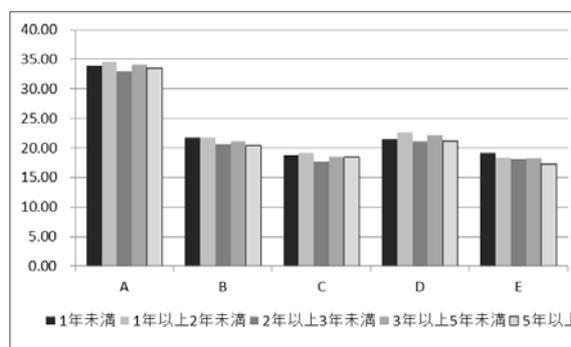


図2 競技歴別合計点の違い

4. まとめ

本研究によって、小学校高学年では、年齢や競技歴の長さで「楽しさ」の感じ方は変わらないことが明らかになった。

5. 引用・参考文献

- ジャクソン・チクセントミハイ: 今村・川端・張本 訳 (2005) スポーツを楽しむ. 世界思想社: 京都府, p. 211.
- 内田博昭・西田保・高橋結香 (2004) 少年サッカーにおける楽しさの構造と性格特性に関する研究. Nagoya J. Health, Physical Fitness, Sports Vol. 27, No. 1. 39-45